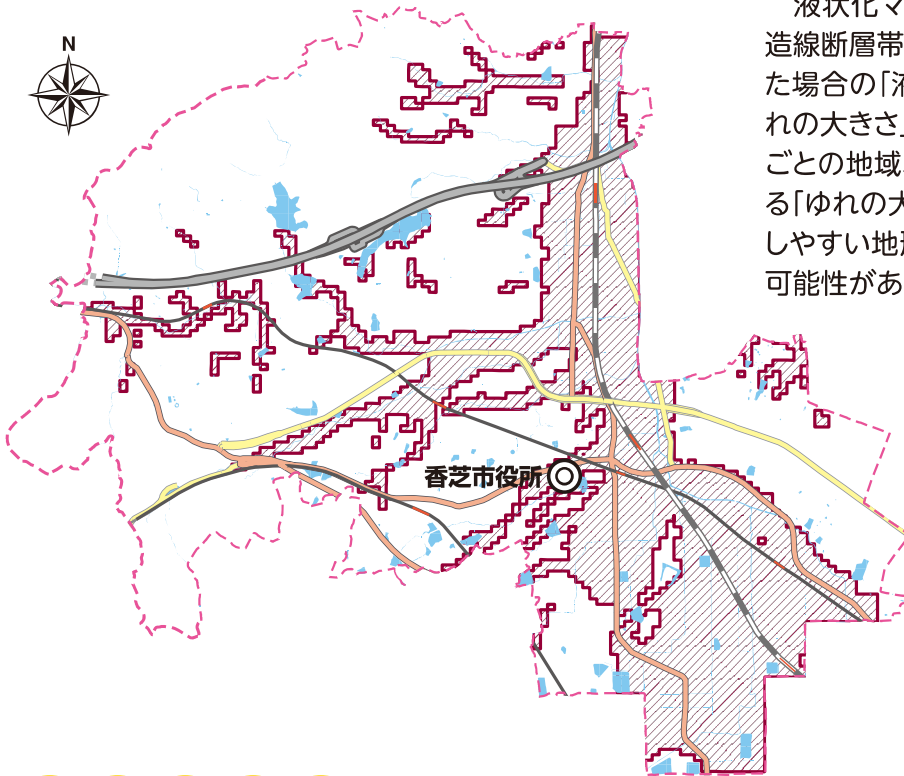



液状化マップについて(中央構造線断層帯地震)



液状化マップは、「ゆれやすさマップ(中央構造線断層帯地震)」で示した強さのゆれが起こった場合の「液状化の可能性のある範囲」を、「ゆれの大きさ」と「地形」から判読し、50mメッシュごとの地域単位で示したものです。想定している「ゆれの大きさ」が大きく、低地などの液状化しやすい地形のため、平野部の多くで液状化の可能性がある結果となっています。

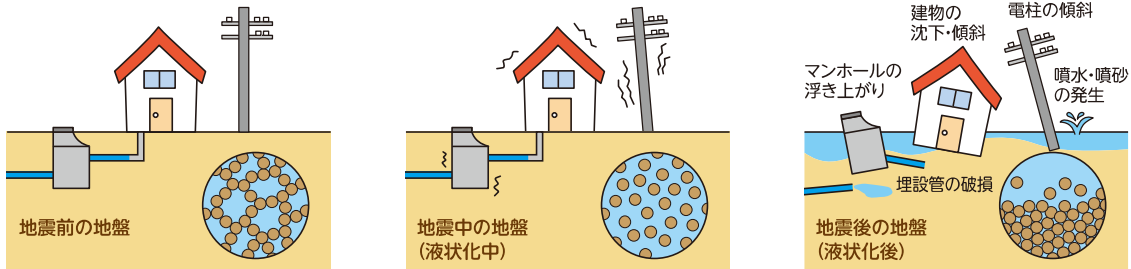
液状化 凡例

 液状化の可能性
がある範囲

※このマップに示す「液状化の可能性のある範囲」は、ゆれの大きさと地形による簡易な予測であり、状況によっては発生の可能性が異なることがあります。

液状化現象とは

液状化とは、地震が発生して地盤が強い衝撃を受けると、今まで互いに接して支えあっていた土の粒子がバラバラになり、地盤全体がドロドロの液体のような状態になる現象のことをいいます。液状化が発生すると、地盤から水が噴き出したり、建物が沈んだりします。



土の粒子が互いに支えあい、その間を水が満たして地盤を支えている

地震によって、土の粒子の結合がなくなり、水に浮いた状態となる

土の粒子は水と分離し、地盤の沈下や亀裂が発生する

出典:「液状化現象について」(国土交通省) (https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_fr1_000010.html)

地震時の行動

① 地震発生時

緊急地震速報を見聞きしたり強い揺れを感じたとき

屋内の場合

大きな家具やガラスから離れる

屋外の場合

建物やブロック塀、崖などから離れる

② 地震の後

揺れが一旦収まったら

屋内の場合

※倒れた家具、ガラスの破片、落下物などに注意!
●窓や戸を開け出口を確保 ●火の元を消す
●電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を締める
➡屋外などの安全な場所に避難

屋外の場合

●倒壊のおそれのある建物やブロック塀、崩れるおそれのある崖などに近づかない

※大きな地震の後には、多くの場合、その近くで引き続いて多数の地震が発生します。もう強い揺れを伴う地震は起きないとは決して思わないようにしましょう!
※誤った情報(デマ)に惑わされたり、広めたりしないように気をつけましょう!